

GENESIS松島計画の問題

伊与田昌慶(国際環境NGO 350.org Japan)
2026年9月28日・Japan Beyond Coalシンポジウム



GENESIS松島 —「石炭ゾンビ」計画



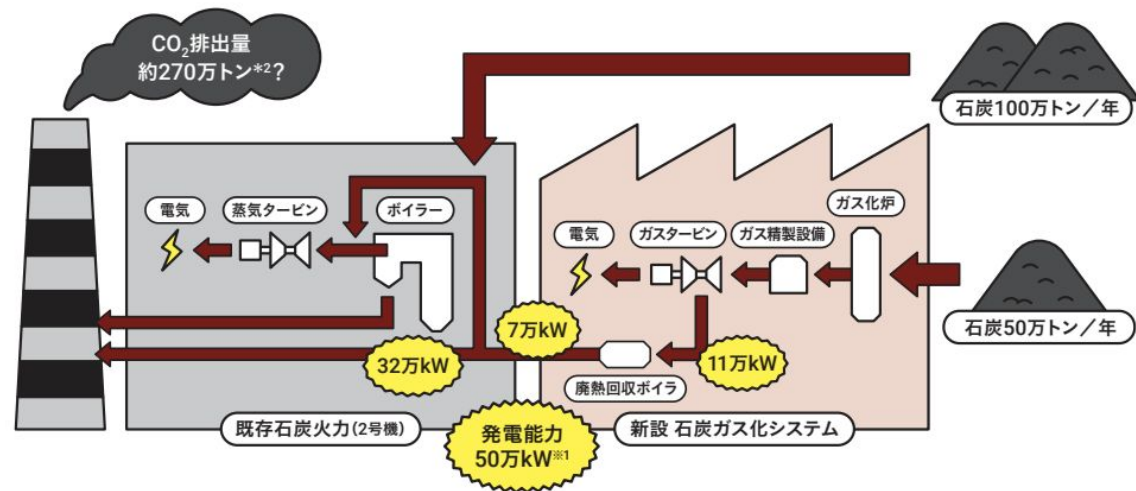
G ENESIS 松島計画は、電源開発株式会社 (J-POWER) が長崎県西海市の松島で進めている、老朽化した石炭火力発電所の改修計画です。本来はすぐに廃止すべき老朽化した非効率石炭火力を蘇らせる計画であり、改修後も大量のCO₂が排出されることから、環境団体などから「石炭ゾンビ」だと批判されています。



旧式の石炭火力に石炭ガス化設備を追加

J-POWER が2021年4月に公表した「GENESIS 松島計画」は、長崎県西海市にある松島火力発電所に石炭ガス化複合発電 (IGCC) 設備を付け加え、石炭火力発電所の効率改善を図る計画です。松島火力発電所は1981年に運転を開始した石炭火力発電所 (超臨界圧:SC) で、1号機 (50

図表1: GENESIS 松島 (石炭複合型発電) の仕組み



*1 ボイラの設備能力は50万kWあるが、そのうちの32万kW分を活用としている。*2 J-POWER は排出量を示していないが、10%程度の削減効果と過去の排出から算定。

万kW) は2025年5月に廃止されました。2号機 (50万kW) は GENESIS 松島計画の実施に向けて2025年4月に長期停止に入っており、2026年度の工事開始、2028年の運転開

水準であり、実質的な排出削減とは言えません。

さらに、将来的に水素・アンモニアの混焼も計画されていますが、当面計画されている混焼率は20%程度で、いつから実施するのか公表されていません。混焼を実施しても、残りの燃料は石炭であり、水素・アンモニアの製造や輸送の過程

参考リンク: <https://act-matsushima.jp/2026/01/14/news-20260114/>

改修しても大量のCO₂排出が続く



2026年6月25日 : J-Power株主総会アクション



生きていくのに
必要なことまで
我慢しなきゃいけないの？

命にかかわるほどの暑さの中で、
エアコンをつけるかどうかを迷う。
前なら買えていたものを考え直す。

こうした本人のせいではない
「我慢」が日常のあちこちで増えています。

署名する

<https://350jp.org/affordability/>

参考：J-Powerと「GENESIS松島」をめぐる動向

- 加藤社長「GENESIS松島計画は当初計画より遅れるが、大崎クールジェンで長年実証してきた酸素吹き石炭ガス化技術は極めて将来性の高い技術だ。日本だけでなくアジアにとっても優位な技術オプションだと思っている」(2026/04/03 電気新聞)
- 350.org Japanとグリーンピース・ジャパン、石炭火力発電増設計画「GENESIS松島」の中止を求める要望を電源開発に提出(2026/04/08)
- 「西海市の松島火力発電所で、受電設備の事故により火災が発生。この影響で、長崎市など 9つの市と町で最大約26万7000戸が停電」(2026/05/15 長崎国際テレビ)
- 電気新聞「26年の着工、28年度の運転開始を予定しているが、コスト増を背景にスケジュールを見直す予定」(2026/06/22 電気新聞)
- J-power株主総会にあわせ、国際環境 NGO 350.org JapanなどのメンバーがGENESIS松島計画の中止をもとめて、株主総会会場前にてアクション実施(2026/06/25)
- 西海市の瀬川光之市長らが県知事に要望：松島火力発電所の「GENESIS松島計画」の早期実現支援などを求める(2026/07/14 長崎新聞)
- J-Power加藤社長「新たに石炭火力を建設する選択はもはやなく、いかに石炭火力を活用しながらCO2排出量を減らせるか。「GENESIS松島計画」は、足元のコストの上昇や経営資源の最適配分の観点から延期・再検討している状況です が、酸素吹きIGCC(石炭ガス化複合発電)は有望な技術であり、CCS(CO2の回収・貯留)との組み合わせは、火カトランジションの合理的な選択肢となり得ます」(2026/09/01 エネルギーフォーラム)